

H.A.L.'s Circle Review 通算配信 5,000 号に寄せて

H.A.L.'s Circle 会員の皆様、川又様

このたびは、H.A.L.'s Circle Review の通算配信 5,000 号、誠におめでとうございます。
株式会社エミライを代表するとともに、一人の会員として、心よりお祝い申し上げます。

学生時代にハルズサークルに入会した私にとって、川又様の文章は、オーディオへの好奇心を育んでくださる存在でした。表紙にカバーをかけ、幾度も読み返した『音の細道』も、大切な思い出です。文章の向こうにどのような音が広がっているのだろう。その期待に胸を膨らませながら読む楽しみは、今も変わりません。

3,000 号の折にもお祝いの言葉を寄せる機会をいただきましたが、そこからさらに 2,000 号。一号一号に注がれた時間と情熱、そして 26 年にわたりこの輪を育てこられた川又様と会員の皆様に、改めて深く敬意を表します。

今では新製品のご紹介に際し、川又様のフロアで直接ご説明させていただく機会があります。温かく迎えてくださる一方、試聴では真剣に音に向き合い、熱心に質問を重ねてくださる。その製品の魅力を理解し、可能性を引き出そうとされるお姿に、いつも気が引き締まります。

とりわけ心に残っているのが、あるお客様への製品導入に際し、セットアップのお手伝いに伺った時のことです。川又様は私にもリスニングポジションを勧め、おすすめの音源を聴かせてくださいました。ご自身が全面的に監修されたお部屋とシステムのなかで、私たちがお届けした製品がどれほどの可能性を発揮するのか。それを、届ける側の私にも体感してほしいという熱意が伝わってまいりました。

学生時代、文章を通じて未知の音に思いを巡らせていた私が、今度は実際の音を通じて、川又様から新たな気づきをいただいている。そのご縁を、大変ありがたく感じています。

ご自身が心を動かされた音楽を、誰かと分かち合いたい。その思いは、フロアでも、お客様のお部屋でも、そして毎号の文章にも通じているのではないのでしょうか。

会員の皆様にも、それぞれ心に残る一節や、そこから始まった音楽との出会いがおありのことと存じます。5,000 号は、そうした一人ひとりの思い出が重なる節目でもあると感じます。弊社も、皆様の音楽の時間をより豊かにするお手伝いができるよう、誠実に製品と向き合っています。

これからの配信も、一人の愛読者として楽しみにしております。川又様のご健勝と、会員の皆様に素晴らしい音楽との出会いが続きますことを、心よりお祈り申し上げます。

株式会社エミライ 取締役 島 幸太郎